鈴鹿市議会・議員活動だより

2024年 4月

中西だいすけ

HPのQRです

発行：中西だいすけと鈴鹿を育てる会

http://www.daisuke-nakanishi.net/ Eメール daisuke.nakanishi@gmail.com

2月定例議会報告

代表質問、議案質疑、一般質問、討論に登壇

議決について

今回の定数増は反対

職員定数の上限を増やす議案第11号ですが、消防職員の上限を10人増やすことは、自然災害への対応、救急搬送の増加や感染症対応などを考えると必要と考えました。

しかし市長部局職員の50人増は、議案質疑や一般質問、総務委員会の議論等から、理解と納得のできる説明が不足していたため、議案の再提出を求め反対としました。以下が理由です。

① 行政対応への疑問

議案質疑の際、要旨を連絡しましたが対応は遅く、また連絡が夜間に来るなど、仕事の手順や時間外勤務に対する考えに課題を感じました。

② その場しのぎ？

算出根拠に関して、質疑では数字の独り歩きを避けるためと答えを避けたが、総務委員会で説明と数字が記載された資料が提出された。行政の誠実さに疑問がありました。

③ 財源の考えが不明

定数上限となったときの人件費を確認したところ、市長部局では約3億7千万円とあったが、このような経常的支出の増加に対する財源の考えが説明されず、不明で納得できませんでした。

市議会は定数を4人減らしたことで、年間約4千万円の削減ですが、どう行政は考えているのか疑問です。

④ 直前に組織変更の疑問

50人の算出根拠は、各部署からのヒアリングからということでしたが、条例改正の根拠となる定員管理方針は2月定例議会の直前に公表、定数にも関係する令和6年4月組織変更の報告は3月21日でした。このような行政の姿勢を容認できませんでした。

結論として…説明不足！

これらの他、時間外勤務への対応や、事業や業務手順の見直し、早期退職者を考えると人事の考え方など、説明不足と考えました。

議案は可決に…

討論では以上の内容と、このような行政の姿勢に、毅然と市議会が向かい合わなければ、鈴鹿市に良いことはないと訴えました。

ですが、**賛成24、反対3**で議案は可決となりました。

他議案は賛成

当初予算への意見

令和6年度予算は約745億円ですが、半分以上は義務的経費で、市税（個人・法人市民税、固定資産税など）が横ばいから微妙に下がっていることが気がかりです。

また、総合計画2031の前期計画期間の財政見通しは、約50億円強が不足、4年後の財政調整基金残高は約17億円と推計され、厳しい予測です。

基金（貯金）に不安

その中、令和6年度予算で公共施設整備基金の残高は約5千7百万円、地方債減債基金約15億円強です。数年はやりくりできるでしょうが、その先に不安があります。

たしかに白子中など必要な事業に使うことはわかるのですが、これから千代崎中や白鳥中、天栄中などでも大きな金額が必要ですし、他の公共施設等も改修や修繕が必要です。20年後の議論も必要で、施設整備だけでなく維持・修繕も含めた基金に転換し、10年は不安なく運用できるようにするべきと意見しました。

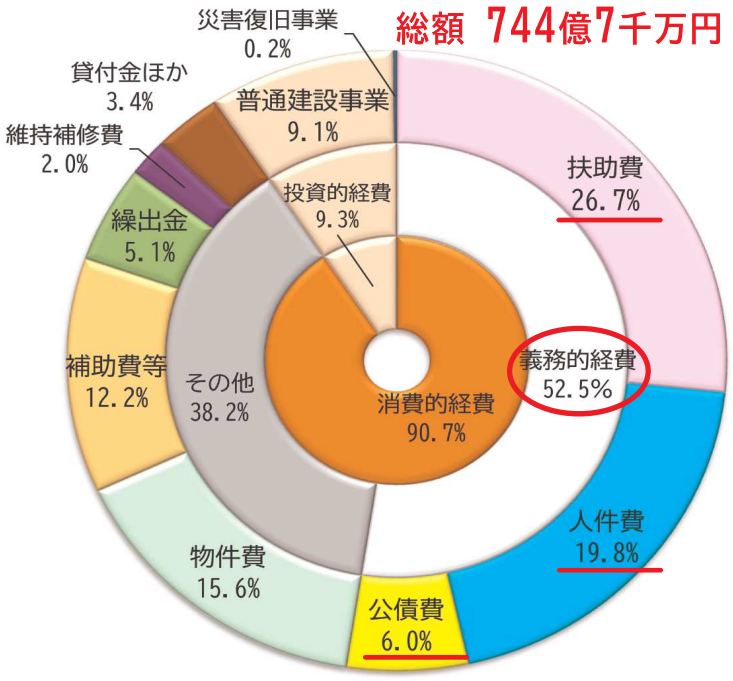
固定費増加の抑制

歳出面では、子ども医療費の対象拡大や、小中学校への空調設備設置など、経常的支出の増加につながる施策が挙げられている一方で、歳出抑制に対する意識、行財政改革に対する意識は乏しいと危惧しています。

義務的経費の、扶助費は福祉に関係するもので削減は難しく、借金返済の公債費は金利の上昇を考えると厳しいもので、残る人件費をどう考えるかが問われます。経常的支出の削減を意識せずにはいられない鈴鹿市です。

令和６年度　歳出予算　性質別構成比

総額 744億7千万円



財源があるなら、優先は市民要望から

令和5年 12月定例議会報告

補正予算議案 人件費部分に 反対

補正予算採決の様子▶
反対は市民の声５名と無所属１名でした。

遡る部分に異議

12月定例議会では補正予算が提案され、その中に人事院勧告を受けた給与改定分の1億7542万6千円がありました。

人件費に関する人事院勧告の内容は、新卒職員のベースアップや、若い層に向けたものでした。それらについて令和6年度からの適用であれば、まだ理解はできたのですが、令和5年4月にさかのぼって適用する部分の財源に異議がありました。

人件費財源は貯金から

補正予算の財源は、市税の増額分と財政調整基金からの繰入で、それで行われる事業は、こどものための教育・給付事業費、生活保護関連、障害児通所支援事業費、子ども医療費、ひとり親家庭医療費など重要なものでした。重要な事業から市税の増額分を充てていくと、それだけでは不足し、残りは基金からの繰り入れで、結果として人件費増額分と同額となりました。

市民要望への対応は？

地域要望や市民要望に対して「財政が厳しく、予算がない」と言われます。実際に、地域の声に対して、事業実施にずれがあった事例があり、今後を確認したところ「財政が厳しいため、いつになるかわからない」と返答をする部署がありました。

考え方はいろいろですが、このようなことを目の当たりにして、財政調整基金（貯金）を当てにした人件費アップに、私は理解と納得はできず、補正予算に反対しました。

次世代への責任

主権者教育で財政を考える機会も大切です。また、次の世代に財源を残す、持続可能な地域社会を残すことが現役世代の責任で、そのために市民の皆さんとの情報共有と説明責任に誠実に取り組むよう意見しました。

市議会動画です 質疑、一般質問 委員会、討論とご覧ください

市議会ＨＰです いろいろ情報が知りたいときはこちらに